

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	ひょうごけんりつひょうごこうとうがっこう				②所在都道府県	兵庫県
26～30	①学校名	兵庫県立兵庫高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 920名	
普通科 (内コース等)	80 (40)	80 (40)	80 (40)		240 (120)	1年 8クラス (内未来創造コース1クラス) 2年 8クラス (内未来創造コース1クラス) 3年 7クラス (内総合科学類型1クラス)	
⑥研究開発構想名	“課題先進国” 日本を担い世界へはばたく「未来の創造者」の育成						
⑦研究開発の概要	国際機関、行政機関、国内外の高校・大学、企業等と連携し、グローバル社会の課題解決を目指す文理融合型の4つの課題研究を柱に、「科学的思考力」、「複眼的思考力」、「社会創造力」、「自律的活動力」を兼ね備えた未来の創造者を育成するための国際的、実践的な教育システムを研究開発する。						
⑧ 研究開発の内容等	<p>(1) 目的・目標 「科学的思考力」、「複眼的思考力」、「社会創造力」、「自律的活動力」を備え、グローバル社会で活躍できる未来の創造者を育成するカリキュラムや指導方法の研究開発</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説 平成22年度に総合科学類型を設置し、平成26年度から類型を「未来創造コース」へ改編し、学校設定教科「創造」や専門科目「理数」を通じて、地域の課題解決、自然科学、国際問題の3種類の課題研究を行い、未来を切り拓く人材の育成を図ってきた。また、課題研究以外にもJICA関西、EUIJ関西等と連携してのワークショップやシンポジウム、国際機関や行政機関、企業等を訪問しての政策や企業戦略等についての学習も行ってきた。そして、今年度はスーパーグローバルハイスクール・アソシエイトとしてベトナムでの海外研修を企画。JICAと連携し、ODAプロジェクトの現場訪問やハロン湾の環境改善のための植林活動等を実施した。 これらの取組を踏まえ、海外の高校・大学、国際機関やグローバル企業との連携をさらに深め、東南アジア（ベトナム）の抱える課題について、社会科学・自然科学の両面から解決策を考察する文理融合型の課題研究を行い、実践力に富んだ未来の創造者を育成するため、以下の仮説に基づき研究開発を行う。</p> <p>仮説①：海外フィールドワークを含むグローバルな文理融合型の課題研究や関連する実践活動により「科学的思考力」「複眼的思考力」「社会創造力」「自律的活動力」を備えたグローバル人材が育成される。</p> <p>仮説②：国際機関や海外の高校・大学との連携した課題研究を行うことにより、国際化に重点を置く大学への進学や海外留学等を目指す人材を育成することができる。</p> <p>仮説③：国内大学の留学生や海外の大学生、高校生と交流する機会を増やし、議論したり文化交流を行うことにより、日本人としてのアイデンティティや英語の総合的な運用能力を高めることができる。</p> <p>仮説④：発表会や各種セミナー、コンテスト等への参加機会を増やすことで、論理的・批判的に考え、グローバルな視点に立ち社会に貢献する志、企画力・行動力などの「社会創造力」や自己のキャリアを設計する「自律的活動力」が育成される。</p> <p>(3) 成果の普及 報告書、Webページの活用、本校主催のシンポジウム等のほか、大阪大学など国際化に重点を置く大学と連携して近畿のSGH指定校、県内の高等学校による合同発表会を開催する。また、事業全体を通して、教育プログラム、カリキュラム開発について運営指導委員等から検証評価を受け、成果の普及を図る。</p>						
	⑧-1 全体						

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>①「持続可能な都市と環境」 1年では、コミュニティと社会資本形成、震災後の創造的復興、人工建造物と生物多様性の保全、都市環境と健康格差について学び、神戸の都市計画を作成する。2年では、植物による環境浄化や環境汚染モニタリング、統計分析を学び、ベトナムで現地の大学生・高校生と都市と環境問題について調査・研究し都市計画を作成し、ハロン湾環境浄化プロジェクトへ参加する。さらに、イギリスでヨーク大学等と共同研究を行い、日・越・英を比較し未来の都市モデルを作成する。 連携先：外務省、アジア開発銀行、神戸市、国際防災研修センター、WHO 健康開発総合研究センター、大阪大学、神戸大学、大阪府立大学、ハノイ国家大学、ホンガイ高校、ヨーク大学、セント・オレーブズグラマースクール、日建総合研究所等</p> <p>②「グローバル化と新産業モデル」 1年では、神戸の産業の歴史とグローバル戦略、近郊農業の現状と課題、特産品（山田錦、神戸ビーフ等）について、フィールドワークと研究を行う。2年では、日本企業の技術開発と海外展開について学び、エネルギーシステムや燃料電池の実験・実習を行い、ベトナムで日本企業の工場を訪問し、新しい技術を用いたビジネスモデルを構想する。また、ベトナムの農村の現状と開発、植物の生理機能等について学び、食用・薬用植物の生理機能評価実験を行い、ベトナム農村におけるビジネスモデルを提案する。 連携先：JETRO、神戸市、大阪大学、神戸大学、京都大学、兵庫県立大学、フエ医科薬科大学、東芝、三ツ星ベルト、住友ゴム工業等</p> <p>③「健康環境リスクマネジメント～食と水の環境～」 1年では、神戸医療産業都市、保健所・検疫所・中央卸売市場の実務等について学び、公衆衛生行政や食品の安全衛生のあり方について研究する。2年では、日本とベトナムでの食品や水質についてのサンプル調査を行い、健康環境リスクマネジメントのあり方を研究する。 連携先：神戸市、大阪大学、ベトナム国立栄養学研究所、タイビン医科大学等</p> <p>④「外国人の受け入れと日本のグローバル化」 1年では、神戸における移民・難民受け入れの歴史と現状を調査し外国人受け入れについて政策を提案する。2年では、経済連携協定による外国人労働者の受け入れの講義や難民受け入れについてのワークショップを行い、ベトナムでは、介護士養成についての現地調査や難民が生じた歴史、イギリスでは移民政策やその課題について学び、日本の外国人労働者や難民受け入れについての政策提案や実践活動を行う。 連携先：国連 UNHCR 協会、神戸市、大阪大学、フエ医科薬科大学、ヨーク大学等</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 上記の4つの課題研究のうち、①②は未来創造コースの生徒が、③④は普通クラスの選択者がいずれかのテーマを選択し、3年間継続して活動する。3年では、各テーマとも研究成果を論文にまとめ、校内の発表会やシンポジウム、大阪大学等において発表する。なお、論文作成に当たっては、連携先大学の大学院生のピアサポートを活用する。 検証評価については、内部評価（生徒・教員）、外部評価（運営指導委員、保護者等）のほか、京都教育大学教授等の協力を得て検証評価を実施する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等（未来創造コース）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目「創造基礎」「RRE」による「現代社会」の代替 ・学校設定科目「創造応用IL」による「世界史A」の代替 ・学校設定科目で実施する(1)①～③の課題研究による「総合的な学習の時間」の代替
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクールの理念に基づくグローバル・シチズン育成の研究 ・グローバル社会に必要な資質・能力を自主的に設計するキャリアプランの研究 ・グローバル社会に求められる英語の4技能を育成する手法の研究 <p>検証評価は、自己評価、生徒・教員のアンケート、大学院生・大学教員の評価</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 ⑧-2 (3)に同じ</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクールへの加盟 ・「グローバル探究クラブ」の設置 ・研究倫理教育推進委員会の設置
<p>⑨ そ 他 特 記 事 項</p>	<p>兵庫県教育委員会と連携し、SGH指定校を中心とする合同発表会を本校が幹事校となって企画・運営する。</p>

ふりがな	ひょうごけんりつひょうごこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	兵庫県立兵庫高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	240人
	SGH対象生徒以外:		61人	80人	人	人	人	360人
目標設定の考え方: 課題研究や学校設定科目等の取組により意識を高め、社会貢献活動や自己研鑽活動につなげる。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:		1人	1人	人	人	人	15人
目標設定の考え方: 海外留学、海外研修、姉妹校交流の目的や魅力を明確にして募集を行い、海外志向を高める。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		10%	10%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: 海外研修や国際社会で活躍する人材の講演等を通して、意識の高揚を図る。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	12人
	SGH対象生徒以外:		0人	6	人	人	人	2人
目標設定の考え方: 出場経験者の体験談など、各大会の魅力等を積極的に伝え、参加への意欲を高め、指導体制も整備する。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	40%
	SGH対象生徒以外:		6%	6%	%	%	%	30%
目標設定の考え方: 授業改善やSGH関連プログラムにより、英語の運用能力向上を図り、B1～B2レベルの生徒を増加させる。								
(その他本構想における取組の達成目標)								
f	SGH対象生徒:							
	SGH対象生徒以外:							
目標設定の考え方:								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		36%	33%	%	%	%	60%
目標設定の考え方: 高大連携による国際化に重点を置く大学との取組や進路ガイダンス等の充実により、進学志向を高める。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	1人
目標設定の考え方: 海外大学との連携を深め、進路指導部に海外進学担当を設け、支援体制を構築する。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: 大学における選考、研究につながるように課題研究の充実を図り、進路に関する情報提供も積極的に行う。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	50人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	20人
目標設定の考え方: 校内のキャリアガイダンスに、大学在学中の海外研修等に関する情報提供を行い、海外志向を高める。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	11人	人	人	人	人	人	70人
目標設定の考え方: 海外研修参加者の報告会を行い、研修の意義を伝え、意識の高揚を図り参加者を増やす。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	40人	52人	人	人	人	人	人	120人
目標設定の考え方: 国内研修について、訪問先との連携を深め内容を魅力的なものにして参加者を増やす。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	0校	校	校	校	校	校	10校
目標設定の考え方: 課題研究のテーマに応じ、新たな高校、大学との連携先を積極的に開拓する。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	51人	55人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 連携先大学との関係強化やテーマ拡大に伴う新規連携大学の開拓を図り、外部人材の参画回数を増やす。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	19人	20人	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方: 連携先との関係強化と新規連携先の開拓を図り、グローバル社会で活躍する人材の参画回数を増やす。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	10人	16人	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方: 「グローバル探究クラブ」を設置し、参加するための指導体制を構築し、参加者の増加を図る。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	5人	0人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 姉妹校や連携校及び新規連携校から、様々な機会を通じて受け入れの機会拡大を図る。								
先進校としての研究発表回数								
h	3回	4回	回	回	回	回	回	8回
目標設定の考え方: 現在の校内中心の研究発表から、校外での研究発表を積極的に行う。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方: 海外連携先との関係強化や海外への発信力の強化から英語のホームページ担当係を設置し、整備する。								
課題研究の成果を高める実践活動								
j	80	80						160
目標設定の考え方: 課題解決のために課題研究で提言した方策等について、実践活動につながる指導を行う。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	836	874	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							